

日本三景
天ノ橋立
西國二十八番

成相山
成相寺

西國二十八番御詠歌

波の音

杉のひとも

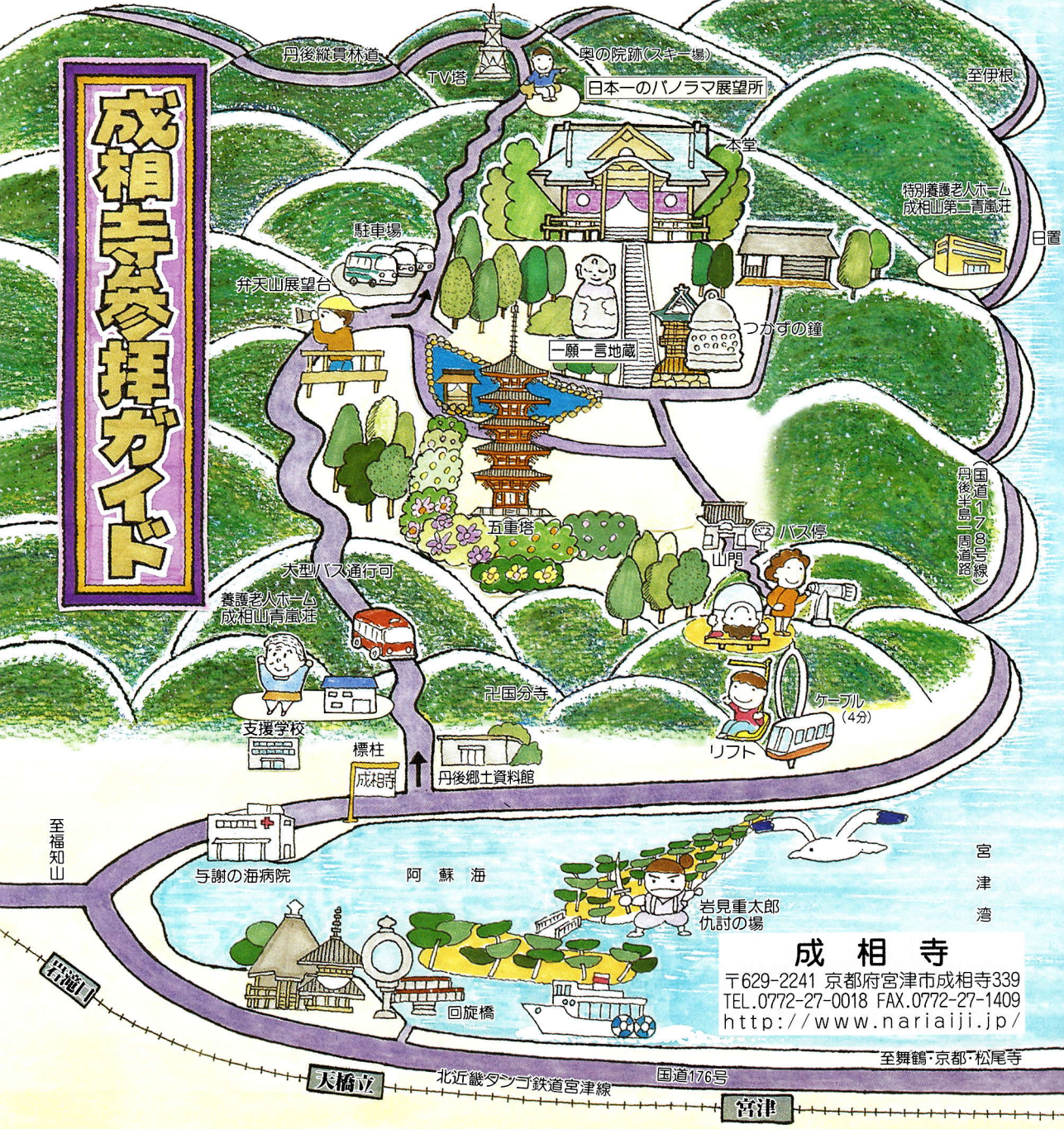
成相の

うせふさわたりす

天の橋立

丹波國
成相寺

成相寺参拝ガイド



成相寺

〒629-2241 京都府宮津市成相寺339
TEL.0772-27-0018 FAX.0772-27-1409
<http://www.nariaiji.jp/>

至舞鶴・京都・松尾寺

天橋立

北近畿タンゴ鉄道宮津線

国道176号

宮津

至福知山

宮津湾

阿蘇海

与謝の海病院

岩見重太郎
仇討の場

回旋橋

標柱

成相寺

礼国分寺

丹後郷土資料館

支援学校

養護老人ホーム
成相山青嵐荘

大型バス通行可

五重塔

一願一言地蔵

つがすの鐘

本堂

奥の院跡(スキー場)

日本一のパノラマ展望所

TV塔

丹後縦貫林道

至伊根

特別養護老人ホーム
成相山第二青嵐荘

白置

国道176号線
丹後半島一周道路

美人観音由来

民話の伝説のいきづく 「やすらぎの里」

五条の右大臣高藤の子は、観音祈願の授かり子玉若君を大変可愛がり二歳の時四位の侍従の位を得て、丹後但馬の国を与えられた。小さい時から笛を上手に吹いて居られたが十三歳で父母を亡くし孝行な子であつたので、一週間笛を吹いて供養していた。その笛の音を聞いた梵天国の王（仏教の主護神）が、「吾が姫を嫁に差上げよう」と云い、美しく心の優しい姫君を妻に迎え入れられた。此の話を聞かれた天皇が羨まれて「おまえの妻を内裏に参らせよ」それが出来ねば……と無理難題を申出されたが二人の力で総て叶えられた。最後の難題「梵天国王直々の御判が欲しい」との事。中納言は父君に当る梵天国に行き食事を与えられた時、側で人でも鬼でもない飢えた骸骨の様なものが食事を求めた。慈悲深い中納言は哀れに思い御飯を与えた。すると一粒千人力と云う米を食べて鎖を切り大空へ飛んで行った。これが羅刹国のはくもん王（悪鬼）であつた。はくもん王は邪恋していた中納言の妻を奪い羅刹国へ帰った。中納言は御判を頂いて帰ったが、妻の居ない家や世の無常を感じお髭を切り出家して願を掛け妻を助けられる様祈った……。妻を救い出し都へ帰ったが、都の生活を嫌い丹後へ下られ妻は成相の観音様となり、中納言は久世戸の文珠となられた。そして一切の生物をお救いなされたと、成相観音は美人観音、美人になれる観音様として名高い。

（御伽草子梵天国より）

願う事必ず成り合う寺

ナリ 成相寺 アイ ジ

開基 慶雲元年（七〇四）真応上人

本尊 聖観世音菩薩

寺宝 1 紅波離彌陀画像 重文

2 丹後諸庄郷保田数帳目録重文

3 参詣曼荼羅

4 八字文殊画

5 守影農耕図屏風

6 单庵知伝水墨画

諸堂

1 熊野権現社

2 十王堂

3 観音堂

4 一願一言地藏

7 悉丹字母釈義

8 一色道政法華經八卷

9 仏像数十軀

成相寺由来

一人の僧が雪深い山の草庵に籠って修業中深雪の為、里人の来往もなく食糧も絶え何一つ食べる物もなくなり、餓死寸前となった。

死を予感した僧は「今日一日生きる食物をお恵み下さい」と本尊に祈った。すると夢ともうつつとも判らぬ中で堂の外に狼の為傷ついた猪（鹿）が倒れているのに気付いた。僧として、肉食の禁戒を破る事に思い悩んだが命に変えられず、決心して

猪（鹿）の左右の腿をそいで鍋に入れて煮て食べた。

やがて雪も消え里人達が登って来て、堂内を見ると本尊の左右の腿が切り取られ鍋の中に木屑が散って居た。

それを知らされた僧は観音様が身代りとなって助けてくれた事を悟り、木屑拾って腿につけると元の通りになった。此れよりこの寺を成合（相）と名付けた。

お守の寺

必勝守
身代り観音守
カエル入なす守



成相寺山門



弁天山展望台より眺める天橋立（五重塔横）



撞かずの鐘



成相寺本堂(冬)京都府文化財



日本一のパノラマ展望所（本堂より1 km上）能登半島及び北アルプス白山を見る事も出来る

撞かずの鐘かね

慶長十四年（一六〇九）山主

賢長は、古い梵鐘にかえ新しい鐘を鑄造する為、近郷近在に淨財を求め喜捨を募った。一回、二回と鑄造に失敗し、三回目の寄進を募った時、裕福そうな家の女房が「子供は沢山居るがお寺へ寄附する金はない」と陰しい目の色で断った。

やがて鐘鑄造の日、大勢の人の中に例の女房も乳呑児を抱えて見物していた。そして銅湯となったルツボの中に誤って乳呑児を落してしまった。此の様な悲劇を秘めて出来上った鐘を撞くと山々に美しい音色を響かせていた。しかし耳をすますと子供の泣声、母親を呼ぶ悲しい声、聞いて居る人々はあまりの哀れさに子供の成仏を願って一切この鐘を撞く事をやめ、撞かずの鐘となった。



鉄湯船（重文）



飛驒の匠ひだり（左）基五郎作「真向まむきの龍」
（本堂の中にある）



復元五重塔